

一途一心



役割を終えた瞬間

～捨てるものは捨てられる？～

ゴミ拾いをしていて、ふとこんなことを思いました。

このゴミたちも、ある時までは人に必要とされ、それぞれ役割があったんだよなあ…
その役割を終えた瞬間、ポイと捨てられてどんな気持ちだろう…

ん、これって人間社会と同じじゃないのか？

若さは、一つの武器(役割・必要性)だが、時は刻々と流れ、いずれ人は老いる。
若さという武器を失ったとき、私は社会に必要とされる人間でいられるだろうか…(-_-;)

必要性を失った瞬間、モノはゴミとして捨てられる。

世の中には、きちんと分別もできず、決められた場所にゴミを捨てることすらできない人たちがいる。

だから、道にゴミが毎日落ちている。

ゴミをポイ捨てる人間は、平気で人も切り捨てられる人間なのではないか？

だから、ポイ捨てる人間が、間違っても人の上に立つ職には就かないでほしい、
そんな人間を許す社会であってはならない、と切に願うが…正直、それも心もとない。

ゴミをポイ捨てる人間は、自己の必要性を模索する努力をしなかった報いとして、
あるときバツサリ切り捨てられるのではないか？

捨てられた時によやく気づく。(それでは遅いと思うが…)

気付かなければ、責任をすべて自分以外に向け、自分自身を見つめ直す努力を行わ
なかった報いを受けて、また切り捨てられる人生を繰り返す…

社会は厳しいと、学生の頃によく言われた。今も肌で感じることがある。
最近その意味(隠れている部分)が、ぼんやりとだが見えてきた。

君たちには「**いつまでも必要とされる人財**」であってほしいと願う。

君たちは若い。それが君たちの武器だ。

だが、社会は厳しい。若さだけで生き抜けるほど世の中、甘くない。

若さに加えてもう一つ、君だけの武器(役割)を探求し、磨く努力をしてほしい。

